嘉永七年寅十一月四日
大地震の記

甲府大地震の記

附　他国地震の記

甲府地震の覚

一嘉永七年寅の十一月四日朝五ツ時大地震市中一統大騒動潰れ家、潰れ土蔵数多くこれ有り。別して八日町一丁目・魚町二丁目、三丁目、柳町三丁目、三丁目大損し建て家はもちろん土蔵等は無事成るは一つもこれ無く、前代未聞の大変に候。右同日夜までに三十六度計りも震え申し候。翌五日も同様夕申の下刻又々余程の大地震、それにて処々尚また大損し、それより引き続き十五日頃まで同様、その後も当分少しづつ昼夜共震へ申さざる一日もこれ無く候。右に付き夜より十五日頃迄一統宿中惑ひは藪又は畑中へ小屋掛け致し罷り有り候。右に付き五日両御頭様市中御見分の上、出役をもって潰れ場所御調べこれ有り急ぎ御手当てとして、御救米下され候。左の通り嘉永七年寅の十一月四日朝五ツ半時

地震にて潰れ家数ならびに人別調書

一家数八十一軒

人数三百八十四人　柳町

一同四十八軒

同四百八人　八日町

一同十九軒

同百五十人　三日町

一同三百二軒

同百八十人　山田町

一同十一軒

同七十四人　上連雀町

一同二軒

同二十八人　緑町

一同五軒

同二十四人　鍛冶町

一同三軒

同十七人　桶屋町

一同六軒

同十九人　穴山町

一同八軒

同五十二人　竪近習町

一同七軒

同四十六人　横近習町

一家数六軒
人数三十七人　金手町
一同三軒
同十三人　上一条町
一同七軒
同二十二人　下一条町
一同六軒
同三十七人　和田平町
一同九軒
同五十五人　城屋町
一同二軒
同十二人　竪町
一同二軒
同十一人　白木町
一同二軒
同十二人　新紺屋町
一同二十軒
同八十一人　横沢町
一同十三軒
同五十一人　相沢町
一同八軒
同四十一人　新青沼町

一家数十三軒
人数五十五人　一蓮寺地内町
一同二軒
同八人　元三日町
一同三十軒
同二百六十九人　魚町
町数合せて三十五町
総家数　三百四十一軒
総人数　二千六十七人
男　千八十七人
女　八百八十人
怪我　男三人
女二人
即死　女三人
同加勤方出役の上、取調べ人数覚
この人数にて御救米下さる
合　二千三十七人
内　男　千百五十二人
女　八百八十五人

内訳

皆潰れ同様の分

千五百二人

内

男八百七十六人

この米　四十三石九斗

女六百二十四人

この米　十八石7斗八升

味噌　百五十貫二百目

塩　七石五斗一升

半潰れ分

五百三十五人

内

男二百七十六人

この米　六石九斗

女二百五十九人

この米　三石八斗八升二合

味噌　三十六貫七百五十目

塩　一石三斗三升七合五勺

惣〆　七十三石四斗五合

この俵　三百九俵二斗五升五合

味噌　百七十六貫九百五十目

塩　八石八斗四升七合五勺

嘉永七年十一月四日朝五ツ時大地震ならびに出火、津浪にて東海道筋大荒覚

一相州戸塚・藤沢・平塚・大磯・小田原・箱根少々づつ損じ、豆州三嶋大半潰れ出火。下田地震津浪にて人家潰れ流出。駿州沼津御城潰れ、その外家中ならびに町家潰れ出火。原少々損じ吉原潰れ出火。富士川大荒れ。蒲原少々潰れ出火。由井興津少々損じ、江尻潰れ出火。清水港津浪人家流出。久能山御宮無難、その外残らず潰れ、府中御城損じ人家潰れ焼失。

鞠子少々損じ、岡部同様。藤枝人家潰れ出火。田中御城損じ土中へゆり込み、嶋田大半潰れ、遠州金谷・日坂大半潰れ掛川人家潰れ出火、御城損じ、横須賀御城損じ、袋井見附人家潰れ大損し、浜松少々損じ天龍川早水にて通路なし。舞坂人家潰れ津浪にて流出。新井同断、御関所流出。城須賀大損し三州二川同断。吉田人家潰れ御城損じ岡崎御城損じ潰れ、嶋御油少々損じ、赤坂・藤川・岡同断。夜作橋損じ、岡崎御城損じ、西尾の城大損し、池鯉鮒大損し、尾州鳴海大損し、熱田津浪大損し、名古屋少々損じ勢州桑名津浪大損し、四日市同断。津・松坂津浪半損し、山田津浪大損し、石薬師・庄野・亀山・関・坂の下・土山半損し、江州水口石部・草津少々損じ、城州大津京・伏見半損し、摂州大坂津浪大損し宇治川口より浪打ち入り、橋々落ち、神社仏閣大損し、死人数知れず。尼ヶ崎・兵庫辺津浪にて人家荒れ、紀州浦々大津波。志州鳥羽御城津浪にて潰れ、伝法灘辺津浪にて大荒れ、泉州佐野・貝塚・和田辺大津波、奈良大和路大地震。

右の通り先々の儀はいまだ相分らず、中山道も八宿共潰れ、信州越後辺も多分損じ失ふの趣地震に付き御届け書き写し

一今巳の上刻頃当所稀成る大地震に御座候内御供所その外坊申八ヶ院共残らず相潰れ申し候。さてまた御供所潰れ候場所より出火仕り候に付き私儀は早速登山仕り種々消防手当等申し付け候得共、折節西風に御座。御宮の方は風並み宜しからず何分御場近くにて早々鎮火の程も計り難く、その上地震等も未だ相止み申さず、御坂通り追々地山欠落候場所もこれ有り。この上御遷座申し上げ候道筋も御座無く候誠心配仕り候に付き徳音院出府中の儀御座候間御宮附きの者へも申し談じ御坂通り道御出来の内も恐れながら御遷座申し上げ候間、御安全の仕儀を存じ奉り候。御別当山の事方へ御遷座申し上げ候処夕八ッ半時頃漸く下火に相成り候に付き私御宮附の者守護仕り御滞り無く御宮へ御遷座相済み申し候何分火急の儀一通りならず非常の儀にも御座候間右の通り取り計らひ申し候。かつまた御宮塔ならびに私御領一の御門御別条御座無く候。

もっとも未だ地震も相止み申さず候間、この後の処もなほ又油断無く手当等申し付け置き申し候。かつ御山中破損等の儀追々取調べ申し上ぐべく候得共先ず取りあへずこの段御届け申し上げ候。以上

久能惣門番

榊原越中守

一別紙をもって申し上げ候。昨日御届け申し上げ候通り地震に付き久能山の儀当地同様と所々震崩、その上出火仕り委細の儀は、何分取調べ申さず候間得共、取調べ追々申し上ぐべく候。以上御城内の儀は今五日地役の面々見分仕り候所御城内御本丸御殿向御焔硝蔵一棟、御米蔵四棟相残り候得共、殊の外大破相成り申し候。その外御櫓御多門何残らず震崩御門の御渡櫓これまた残らず震崩申し候。もっとも御門の儀は倒れ申さず候得共殊の外大破に付き、出入りの儀、気遣はしき様に相成り、御取締り何覚束なく御座候。御米蔵御橋一の御橋これまた危ふく相成り申し候。その外は残らず崩落申し候。かつ御石垣

の儀は御本丸、二の丸、三の丸内外残らず御櫓御多門崩落、下敷に相成り候間、多分御損相成り候儀と存じ奉り候。かつまた当地御茶園御小屋殊の外大破相成り申し候。その外御役宅向の御儀、御城代伊豆守御役宅住居何残らず崩落、長屋向は相残り申し候。御城番小膳御役宅の儀は住居長屋共別条御座無く候得共、甚だ大破相成り申し候。町御奉行孫太夫御役宅住居向、長屋その外大半震崩申し候。御目付小屋住居向、大半震崩申し候。御目付け小屋住居向、大半震崩申し候。御目付小屋住居向、大半震崩申し候。長屋向も残らず崩れ申し候。組頭小栗庄右衛門御役宅住居残らず震崩申し候。長屋向は相残り候得共大破相成り申し候。御具足奉行守山喜内御役宅住居長屋共残らず震崩申し候。その外三御加番所御小尾の儀は震崩申さず候得共殊の外大破に相成り申し候。かつまた伊豆守支配組頭ならびに勤番その外、組与力同心一同これまた怪我等も御座無く、その外市中ならびに村等の儀は未だ取調べ行き届き申さず候に付き、追々申し上ぐべく候。もっとも昨日の地震一度厳しく相震えその後今日に至る迄数度少々宛相震え只今もって鎮り申さず候。この段申し上ぐべく候段

御老中へ当所の面々より連名をもって申し上げ候に付きこの段申し上げ候。以上

十一月五日

御目付

富永孫六郎

嶋尾より参り候手紙写

丹波亀山・園部辺、播州高砂・明石・飾磨、奈良皆々地震にて損じ家、沢山これ有り候同日地震にて豊後府内四百軒余り潰れ、同州府二百軒余潰れ、阿州徳島、豊前小倉、芸広島同宮島右の外周防、長門肥前・肥後いづれも大震、十日頃迄日々震え申し候由

九州大地震

十一月五日申の刻豊前小倉大地震、夜中震へ通し、六日昼夜五、六度震へ、七日又大地震殊の外裂しく人家大崩れし怪我人夥しく御座候。肥後・肥前・筑前右同日大地震、人家崩れ死人怪我人数知れず。豊後・別府右同日同断。その外九州一円右同断中国筋防州・長州・芸州・備後・備中・備前・播州同断の由もっとも

中国筋いまだ委細の儀は参り申さず候得共、尾の道より上筋にて当地同断の趣申し来り候。芸州広島四日辰の刻大地震、五日申の刻同断、六日中震へ、七日地震合わせ四日五日、六日刻迄二十四・五度も大震の由、その後たびたび震へ数知れず居宅居申さず残らず野宿致し居り候由

右の通り上方より申し来り候間、申し上げ候以上

志満や

佐右衛門

一安政元年十二月二十八日夜五ッ時、内神田連雀町より出火折しも西北風烈しく田町一丁目・二丁目・新銀町・竪横大工町・雉子町・三河町一丁目、四丁目迄残らず、湊町・鎌倉河岸・永富町・龍閑町・主水川岸・河合新石町・白塗町・蝋燭町・関口町・柄木町・須田町一丁目、二丁目表側は残る。新石町・鍋町一丁目、二丁目・平永町・黒門町・松田町・豊島町代地・富山町・永井町・柄木町代地・紺屋町一丁目より三丁目まで元籠物町・今川橋は残る。白銀町一丁目より四丁目迄本石町釘

店北さや町・一丁目より三丁目迄瀬戸物町中程迄小田原町一丁目、二丁目残らず、長沢町・あんしん町・本舟町・いせ町残らず。日本橋・江戸橋・一石橋三橋は残る。ようよう刻五つ半時鎮火。

地震に付き大坂より急便書状写

一嘉永七年寅の六月十四日夜丑の刻より京・大坂その外大地震十八日迄毎日毎日震へ申し候。別して南都大地震興福寺四方塀側も堂舎大損じ、元興寺五重塔三つ目より潰れ申し候その辺町家潰れ一軒も無事成るはこれ無く、死人百二十人計り怪我人三百人、六十人計りは行方知れず

一春日明神石灯籠三本程残り、その外残らず倒れ堂社大損じ

町家ならびに土蔵大半潰れ

一和州郡山御城下・町家柳町一丁目より四丁目迄立家残らずその外所々立家土蔵震へ潰し死人怪我人夥ただし。

一加茂笠木辺、山崩れ水吹き出しその上辺大水

一東海道四日市宿残らず潰れ、その上出火に相成り焼失怪我人、死人数知れず。その外宿々大震動大崩れ

一尾州宮宿・津嶋辺名古屋迄大震

一伊賀上野御城大損し御家中ならびに町家大半潰れその上往来泥吹き出し、死人、怪我人数知れず。行方知れずの者多分土中に埋まり候様子にこれ有り

一勢州桑名・四日市追分辺大震動、別して四日市大崩れし太神宮様無難

一大坂町家土蔵等大損し、十四日夜より二十日頃迄焚火一切相成らず皆外には莚敷き、昼夜居り申し候。京都同様されどもこれは格別の事もこれ無く、誠に前代未聞の事に御座候

一六月十三日越前福井御城下家数一万軒も焼失、御城は無難。

これは失火と申すことに御座。

右大坂表へ申し越し候

一嘉永七年寅の四月二十日暮六ッ時より小室山妙法寺堂舎残らずならびに門前町家残らず焼失

一嘉永七年寅の六月十四日夜八つ時頃、上方筋大地震にて東海道辺津嶋牛頭天王もっともその日御祭礼にて別して大混雑同所寺院その外町家は申すに及ばず相崩れ申し候。また北の方犬山・小牧辺南の方は野間・内海・ものさき辺、佐屋川西、伊勢の国長嶋・桑名

四日市・追分辺迄残らず相潰れ、その上四日市宿出火に相成り一軒も残らず焼失。死人・怪我人数知れず。石薬師・庄野亀山・関・坂の下辺、近江の国は土山・水口・石部辺、西北は美濃国大垣・南宮・今須・柏原。醒が井・高宮・番地。越川・武作辺迄、その外西北の山々大震動にて相崩れ申し候。十五日朝五ツ時半頃ようよう鎮まり候得共、それより少々づつ地震。二十日頃迄震へ申し候。古今稀成る大地震。有ら増し書き記し、諸人に知らしむるもの也。